

令和四年五月一日発行 第二十二巻第五号 通巻第三七二号 (毎月一日発行)
平成二年九月十八日第三種郵便物認可

槐 かい

岡井省二創刊

令和4年5月号



田を打つて

高橋将夫

春の夢見て発光す深海魚
赤外線写真の中の春の闇
行くほどに躁から鬱へ花の山
人声にやすらぐ心春の山

眠さうに貨車通過する春の昼
杉花粉見てウイルスの話など
万金丹飲んで句作り万愚節
恋猫が恋の傷口なめてをり
被災地へ送るエールや春の星
新しき出会ひを求め柳絮とぶ
田を打つてまだまだ男だと思ふ

日月抄

高橋将夫 推薦

春	春	無	影	冬	春	身	人
風	風	機	も	の	な	心	を
を	や	質	また	濤	れ	を	踏
美	思	な	た	岩	ば	濾	み
味	ひ	鉄	清	礁	深	過	い
だ	出	塔	ら	に	き	さ	ま
と	す	冬	か	駄	吐	れ	故
思	こ	の	な	々	息	て	郷
ふ	と	空	り	捏	の	を	の
杜	み	生	し	ね	二	る	麦
の	な	か	野	て	つ	春	を
道	楽	す	水	を	三	障	踏
	し		仙	り	つ	子	む
井	中	中	中	出	久	阪	三
上	貞	西	島	利	保	倉	木
静	子	厚	昌	葉	夢	孝	
子		子	子	孝	女	子	亨

ささめ雪金箔はるに息をつめ
橋本順子

早春をさがして小庭うろうろす
柴田靖子

列島は乾坤一如の元朝よ
竹村 淳

幾つもの波の向かうの春を待つ
阿部さちよ

死ぬるとは行きつくことよ涅槃西風
高野昌代

福豆を拾う青鬼赤鬼も
安野眞澄

薔薇色のコートが包む般若面
田中美恵子

雲間より天女ののぞく春隣
星野昭子

草刻む春の音かと目が覚めし
孫野秀子

槐集

高橋将夫選

先づ以てワクチン注射の針祭る

守口 三木 亨

残雪が未だに隠す夏の恋

誰しらぬ明日といふもの野焼跡

人を踏みいま故郷の麦を踏む

土星の輪針を下ろせば「春の海」

枚方 阪倉 孝子

蒼天へ芽吹の鼓動ひびきけり

花菜漬余生うまかり楽しかり

身心を濾過されてをる春障子

しら梅の静けさに生き幸抱く

竹原 久保 夢女

臘夜の奥に真夜あり呼ばれける

なんの罪なんの科ある寒鴉

臘梅の香を盗み行く吾悪人

二ン月や海キラキラとタップ踏む
人間が夢みるかぎり半仙戯
春なれば深き吐息の二つ三つ

跳箱の着地の先の春隣

大阪 出利葉 孝

ゲルニカよ冬の嵐に立向かへ
鬱憤を蹴散らす如し野火はしる
冬晴や心の澱み浄化され
冬の濤岩礁に駄々捏ねてをり
受験子の玄関きれいに掃き清む
影もまた清らかなりし野水仙
着膨れに囲まれてをる辻地蔵
老いふたり頓珍漢の春炬燵
春の月はしやいでゐたる波の上
無機質な鉄塔冬の空生かす
春の闇老いと幼なの類似点
冬銀河合理の外に神が居る
立春やグレーゾンに居る理由
海深く命溢れる春を待つ

枚方 中島 昌子

守口 中西 厚子